

1 西洋菓子の

西洋菓子の下にしいてある鑑紙がもえはじめた
彼は煙草を灰皿において
どうしたものかと煙草の煙を見てゐた
灰皿の中で もう 燐寸は消えてゐるのに

めらめら色づいてだんだん菓子に近づいた
思ひきつて ふつと 彼は息を吹きかけた
火の粉が飛び散つた
女の心配さうな顔

女は西洋菓子をスプーンで食べはじめた
女の菓子のこちら側は焼け跡のビルディングのやうに
いっぱい黒い小さな灰をあびてゐる

二人のあひだには何事もなかつたやうに
彼はしづかに足を組みなほした
小さい机はゆれて 女の足とぶつかつた

2 夜になつても

夜になつても 暗やみの中で
数千のしたたりが柿の葉をなせてゐる
一枚の柿の葉をめぐつて雨が争つてゐる
落ちそこなつたしづくは枝をしたたり

枝をからむやうにめぐりながら土の上まで
しづかに土をぬらしてしみ込んで行く
窓の外の雨の音は柿の葉を目指してゐる
俺の心の中のそいつは皮の手袋

赤茶けた鉄のやうになりやがつた
苦心してつくりあげた手袋の片方
そいつも君たちのねらひのまとか

暗いぜ もうそれしか残つてゐない
燈をかかげて 跳めてゐよう 俺の女を
真中の筋をたどつて 銀色にひとしづく 君だな

3 山肌は

山肌は赤土をむき出しにしてゐた
小石が流れるやうにぶつかつて来る
小石が流れるやうに走つてゐる所に
みすぼらしい家があつた

男が家の中にて 何ものかを押へつけてゐた
屋根の上のペンペン草
遠くの尾根の枯尾花
私が見たのは次のやうなことだ

彼がしつかりと押へつけてゐるのは
色づいたものであつた
のぞいてゐる私の目の前でそれが正体を現はした

一天俄かにかき曇り
割れ目はふくれあがり
彼が私の方を見た時にはゆがんだ困つたやうな顔になつた